

次期計画の将来像(案)



次期計画の「2050年にめざすべき循環型社会の将来像」(案)

社会情勢の変化を踏まえて検討

※ 第1回部会(令和7年3月4日)の資料3から一部抜粋

<ポイント>

- ・サーキュラーエコノミーにより、資源循環産業が発展している大阪
- ・SDGs、カーボンニュートラル、大阪ブルー・オーシャン・ビジョン等の目標が達成された大阪
- ・国内及び地域レベルでの資源循環と適正処理が確立し、地域循環共生圏が実現した大阪

次期計画の将来像(案)

大阪から世界へ、現在から未来へ 暮らしやすい循環型社会

- ・全ての府民が持続可能なライフスタイルを実践するとともに、動脈産業と静脈産業の連携により資源循環ビジネスが発展することで、資源を効率的・循環的に有効利用する循環経済(サーキュラーエコノミー)へ移行し、資源消費を最小化し廃棄物の発生抑制や環境負荷の低減等が進んでいる。
- ・また、プラスチックごみの排出抑制や環境への流出削減の進展により「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が達成されており、さらに、再資源化技術の高度化も進み、廃棄物分野における温室効果ガス排出量の実質ゼロが実現されている。
- ・これらにより、気候変動への対応、生物多様性の保全が進み、持続可能な循環型社会が形成されている。

(参考) 現行計画の「2050年にめざすべき循環型社会の将来像」

大阪から世界へ、現在から未来へ 府民がつくる暮らしやすい資源循環型社会

- ・世界中の人々が知恵を出し合い、これからの世界を共創していく場となる2025年大阪・関西万博を経て、2030年に達成されるSDGsの価値観が大阪から世界に広がり、ひとを救い、地球を守る取組が社会全体に浸透している。
- ・資源循環分野においては、2030年までに3Rの取組が一層進み、生じた廃棄物は、ほぼ全量が再生資源やエネルギーとして使用され、製品として購入されることによって循環し、最終処分量も必要最小限となっている。
- ・さらに、2050年には、環境、社会、企業統治の観点から企業投資を行う「ESG投資」が一層進み、拡大しつつある車や家等のシェアリングサービスが社会に浸透し、サーキュラーエコノミーに移行して、できるだけ少ない資源で最低限必要な物が生産され、全ての府民が持続可能なライフスタイルを実践している。
- ・また、プラスチックごみはリデュース、リユース又はリサイクル、それが技術的・経済的な観点等から難しい場合には熱回収も含め100%有効利用し、海に流出しないよう適切に管理され、「大阪ブルー・オシャン・ビジョン」が達成されている。